

		5			4			3								
⑥	総額	①	歴代	①	ウ	①	ア	問十一	問十	問五	A	工	問六	ウ	問七	工
63		58		53		48		(ア)	固	41			(イ)			
⑦	可燃	②	綿毛	②	イ	②	ウ	イ	く	42			(ウ)			
64		59		54		49		ウ	て	43			(エ)			
⑧	折	③	豊漁	③	ア	③	ウ	オ	栄	44			(オ)			
65		60		55		50			養	45			(ア)			
⑨	散	④	武器	④	ウ	④	イ		B	46			(ウ)			
66		61		56		51			発				(エ)			
⑩	防	⑤	節約	⑤	ア	⑤	エ		達				(オ)			
67		62		57		52			し				(ア)			
									た				(ウ)			
									内				(エ)			

(配点)

①〔問三〕各3点、他各5点
 ②〔問二・八〕各2点、〔問四〕8点、他各5点
 ③④⑤各2点

計150点

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	21
問二	エ	22
問三	㊸	23
問四	ア	24
問五	イ	25

問五	ア	26
問六	エ	27
問七	A	28
問八	不	29
問九	満	30
問十	な	31
問十一	ん	32
問十二	て	33
問十三	B	34
問十四	か	35
問十五	な	36
問十六	し	37
問十七	く	38
問十八	て	39

問八	エ	29
問九	ウ	30
問十	し	31
問十一	ず	32
問十二	か	33
問十三	だ	34
問十四	け	35
問十五	ど	36
問十六	、	37
問十七	き	38

2

問一	㊸	33
問二	㊹	34
問三	ア	35
問四	㊺	36
問五	イ	37

問三	A	36
問四	土	37
問五	の	38
問六	中	39
問七	に	40
問八	は	41
問九	B	42
問十	栄	43
問十一	養	44
問十二	分	45
問十三	と	46
問十四	し	47
問十五	C	48
問十六	毒	49
問十七	を	50
問十八	作	51
問十九	る	52

問四			
と	て	ス	イ
い	も	レ	ネ
う	、	に	科
点	成	あ	の
。	長	る	植
	点	の	物
	が	で	の
	傷	、	成
	つ	い	長
	く	く	点
	こ	ら	は
	と	食	地
	は	べ	面
	な	ら	ス
	い	れ	レ

【解説】

1 草野の『ハッピーノート』（福音館書店）から出題し

ました。自分を出さず、誰かの言いなりになったり、無理をして誰かに合わせたりすることを受け入れたつもりになって生活していた聡子が、あることをきっかけに感情を爆発させる場面です。聡子の思いが書かれた「学校で必死に：気持ちよく泳げない」という部分から、聡子がずっと抱えていた自分をうまく出せない苦しみを読みとりましょう。

問一 B1 理由 比較

線①の二文後に「あえてお父さんの前で話をきりだしたには理由がある。お父さんにもちゃんと反対してほしかったからだ」とありますので、その部分がおさえられている選択肢はウだとわかります。ア・エ「お父さんにも：反対してほしかったから」という理由に触れられていません。また、ア「感情がたかぶって言い合いになってしまふ」、エ「お父さんが家族に関心をもつきっかけになる」は本文にありません。イ「お父さんも：心配で反対するだろう」、「自分たちの心配する気持ち」の部分不適切です。聡子がお母さんの仕事に反対しているのは、お母さんのことが心配だからではありません。「友達にお母さんが働いてるところを見られるのやだな」というセリフからもそのことは読み取れます。

問二 B1 具体化 比較

線②の二文後に「まっすぐに聡子を見つめたまま、目をそらさない」とあります。ここから、お母さんの気持ちがいっそう固まっていることがわかるので、ア「反対されうるたえ

ている気持ちをなんとかごまかそう」は不適切です。ウ「自分が怒っていることをわからせよう」とありますが、お母さんが怒っているというのは本文中から読み取れません。イ「聡子の真意がどこにあるのか、さぐるう」とありますが、お母さんは、この後も自分の気持ちが変わらないこと、自分がなぜこの仕事をしたのか、ということを中心に語っていて、聡子の気持ちをさぐることよりも、自分の固い意思を伝えることを優先させていることがわかります。

問三 A2 知識 関係づけ

聡子は、自分が強く言って、お父さんを味方につければ、お母さんも仕事をやめるだろうと思っていました。そんな聡子が「お父さんが：言ってくれば③だ。お母さんだって考えなおす」と考えている場面です。ですから、ここには、アが入ります。「考えてもみなかったお母さんの変わりように、⑥になっていた」とあるので、聡子が混乱していることがわかります。ですから、ここにはアの「パニック」が入ります。「ショックになる」という言葉はありませんので、ウはあてはまりません。

問四 B1 具体化 比較

自分の味方をしてくれると思っていたお父さんも、お母さんが仕事をすることに賛成しました。「気をとりなおして」お母さんの痛いところをついたつもりであることを言い、強気で「にらむように見つめかえした」のに、お母さんは「そんなことないわ」とあっさり返しています。想定外の展開が続く、「言葉を失った」のでしょう。ア問一でもふれましたが、「お

母さんのことを思って」の部分の不適切です。ウ「幼い子のように自分のしたいことだけを押し通そうとする人が自分のお母さんだということが受け入れられない」とありますが、お母さんの態度を「幼い子のよう」というのもズレがありませんし、「お母さん：受け入れられない」というのも本文から読み取れません。聡子の話にきちんと返答しているのですから、エ「まともに話を聞いていない様子のお母さん」の部分不適切です。

問五 B1 理由 比較

「変わりたいのよ。お母さん、変わりたいの」というセリフは、「お母さんの言葉がとまらない」中で出た言葉です。そのあと、――線⑤で「はずかしそうに、微笑んだ」とあることから、普段大人しいお母さんが、めずらしくどんだん自分の気持ちを話してしまい、照れながらも、すこしうれしい気持ちになつていることがわかります。おそらく、仕事を続けた理由を家族に向かって次々と話すうちに、今まで言語化できていなかった自分の気持ちに気づいたのでしょう。イ「後悔した」という表現と「微笑んだ」という表現が合いません。「成長できると思う」とか「変わりたい」という思いは、お母さんの素直な気持ちであつて「子供っぽい」とはずれません。また、「聡子との言い合い」というような言葉の応酬もありません。ウ「自分の考えが正しいと確信」は「恥ずかしそうに」という表現と合わないのです。不適切です。エ「聡子に：納得してもらえるところだ」というのは本文中から読み取れません。

問六 B1 具体化 比較

「どうしようとしているのですか」とありますから、その後のお父さんの行動を読みましよう。そこには、「聡子、どうしたんだ？」お父さんは、聡子の肩に手を置いて言った。『どうしてそんなに怒ってるんだ？』とあり、聡子を落ち着かせて、聡子の気持ちを聞こうとしていることがわかります。ア「母親をみかねて」、ウ「きびしくしつけておこう」は本文から読み取れません。イ「苦しみ傷ついているのだ」とありますが、聡子が感情を爆発させてからも、お父さんは「おろおろ」しています。このことから、ここで聡子が何かに苦しんでいるということに気づいているとは考えられないでしょう。

問七 B1 具体化 関係づけ

――線⑧の五文後からいねいに読みましよう。「だけど、それは嘘泣きなんかじゃなかった。聡子は痛かった：聡子は泣きながら、次々にいろんなことを思い出していた：そのどれもが、かなしくて、つらくて、痛い。もう、ずっと前から痛かった：不満なんてないはずだし、言っちゃいけないってわかつてる」の部分です。ここから、聡子が泣いているのは、学校でも家でも塾でも無理をしている自分のことを思つてなのだとわかります。今まで泣けなかったのは、自分が恵まれているから「不満なんてないはずだし、言っちゃいけない」と思っていて、「ずっと前から痛かった」のに、自分が傷ついていると認めていなかったからです。お父さんの軽いげんこつを「なぐられた」ことにしてはじめて、自分をうまく出せずに傷つき、苦しんでいた気持ちを「い

たあーい！」と表出できたのです。
 ※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 **B1** 理由 比較

——線⑨の直前に「：聡子の手をとって、頭をなでてくれた。：そうやってなでられたとたん、身体が自然に動いた」とあり、直後に「ひさびさにかいとお母さんの匂いになつたくて、聡子をますます泣きたい気持ちにさせる」とあることから考えましょう。お母さんはまるでちいさい子にするように、聡子の頭をなでてくれ、聡子は「身体が自然に動いて、幼いころに戻ったように甘えています。その後も「そんなはずかしいつて思いながらも、聡子の身体はお母さんから離れられない：いつまでたっても泣きやまない聡子の背中を、お母さんは、ずっとたたきつづけてくれていた」とあることから聡子はこの間ずっとお母さんに甘えずにはいられなかったことがわかります。ここから、ア「うれしい気持ちをなんとか伝えたかった」イ「申し訳ないことをしたという気持ちでいっばいになった」などの、甘えていたい、ただただこんな自分を受け入れてほしいという思い以外の判断が入っている選択肢は不適切だと言えるでしょう。また、ウ「どんな顔をしていいかわからなくなった」というのは文章中からは読み取れません。

問九 **B1** 理由 比較

聡子が狸寝入りをしている理由を読みとりましょう。——線⑩の二文前に「聡子は目が覚めてもなんとなく気まずくて、

自分の部屋のベッドでごろごろして過ごしていた」とあります。ここから、両親と顔を合わせるのを「気まずい」と思っていることが読み取れますから、答えはウです。ア「お母さんの：気持ちが変わらない様子なのが不満」、イ「甘えてしまいで、はずかしくなった」エ「お母さんが聡子に謝りたいことがあるのはわかる」というのはこの文章から読み取れません。

問十 **B1** 関係づけ

⑩を含む一文をよく読みましょう。「お母さんは：いつもの⑩な声で言った」とあるので、お母さんの「いつもの」様子が書かれている表現を探します。すると⑥の二文後に「お母さんはいつもどおりしずかだった」とあります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十一 **B1** 具体化

自分をうまく出せない聡子の苦しみは、問七でも触れましたが、——線⑧の五文後から示されています。そこを読んでいき、たとえの表現がある部分を探します。すると、「だけど、きれいにクロールできないときみたいに、苦しい。うまく泳げない。気持ちよく泳げない」という部分に気づくはずですよ。
 ※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 稲垣榮洋『世界史を大きく動かした植物』（P・H・P研究所）から出題しました。草原というやせた土地で生き抜くためのイネ科植物の様々な進化と、そのイネ科植物をエサとして食べる草食動物の様々な進化が書かれています。問いかけの文や、接続語などに注意しながら読み進めていきましょう。

問一 **B2** 具体化 比較

「毒で守る」ことの欠点は、——線①を含む段落の、「しかし、毒を作るためには……」以降に書かれています。そこには、やせた土地で毒を作るための栄養分を得ることが大変であること、毒を生成したとしても、動物もその対抗手段を発達させるだろうこと、の二点が欠点として挙げられています。イ「動物は……植物が生成する毒では影響をうけない」、エ「植物があらたな毒を生成するよりも、動物たちがその植物の毒に対して対抗手段をとるスピードが上回る」の部分が本文中の表現とはあわないので不適切です。

問二 **B1** 関係づけ

接続語の問題では前後の文の関係をよく読みましょう。段落の頭の接続語が空欄になっているとき、前後の文の関係をただけでなく、前の段落と、その接続語を含む段落との関係を考えましょう。**②**の前の段落では、「イネ科の植物は、ガラスの原料にもなるようなケイ素という固い物質を蓄えて身を守っている」とあり、後で「イネ科植物は葉の繊維質が多く……葉を食べられにくくしている」とあります。葉を食べられにくくする工夫が二つ（ケイ素・大量の繊維質）並べられているので、ここにはア「さらに」が入ります。**⑦**の直

前の文では、「イネ科植物は葉が固いので、とても食べられない」とあり、後の文で「人類は火を使うことができる……調理をしたり……何とか食べられそうなものだ」とあって、逆接の関係になっているので、イの「しかし」が入ります。

問三 **B2** 具体化 関係づけ

ケイ素の利点は、**②**の直前の段落に示されています。**A**・**B**は、リード文の字数にあわせてこの段落からぬき出して答えましょう。**C**このケイ素について説明している段落は**②**の三行前から始まっていて、前段落に示された「毒を作る」ことの欠点を解消する手段として、ケイ素を体内に蓄えるということが挙げられていることに注目しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 **B2** 具体化 推論

——線④の直後二段落で、イネ科植物と他の普通の植物の大きく違う点が見えられており、次のように図示できます。

植物の種類	成長点の位置	結果
普通の植物	茎の先端	食べられると、茎の先端にある成長点を失ってしまう。
イネ科植物	地面ストレス（株もと）	食べられても、葉の先端を食べられるだけで成長点は傷つかない。

← 対 比 →

イネ科植物の成長点の特徴的な位置とくちょうてきによる利点を説明すればいいのですから、リード文を参考に、普通の植物と対比させる形で「普通の植物の成長点は…にあるが、イネ科植物の成長点は…にあるので、…という点。」というように説明すればいいとわかります。文末の表現にも注意しましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従したがっていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字ごじだつじが一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします

問五

B1 理由 比較

——線⑤の直前に「そのため」とあるので、その直前の「地面の際にある成長点を次々に増殖ぞうしよくさせながら、押し上げる葉の数を増やしていくのである」の部分と同意の表現を選択肢の中から選ばよということになります。ア・ウは成長点について触れられていませんし、イは「…成長点が食べられにくいように、そこから出る葉の数を増やし」の部分が不適切です。

問六

B1 具体化 比較

「それだけにとどまらない」工夫は、ここより後の段落から、草原の動物の話に変わる前の段落までに示されています。そこには、イネ科植物の葉が固く、栄養分がないゆえに、動物のエサとして適していないことが書かれています。この二点に触れられている選択肢はウだけです。アは固いことが書かれていません。イ「栄養分のある葉を…食べられにくいように」の部分が不適切です。エは栄養分がないことに触れら

れていません。

問七

B1 関係づけ

⑧の直後の文が「たとえば」から始まっており、ここから、⑧の例が書かれていることが想定できます。そして、その例の数々は、——線⑩を含む段落の直前の段落で「このようにして、草食動物はさまざまな工夫をしながら、固くて栄養価のないイネ科植物を消化吸収し、栄養分を得ているのである」とまとめられていることからわかるように、草食動物の、固くて栄養価のないイネ科植物を消化吸収し、栄養分を得るための工夫、すなわちイネ科植物をエサにするための草食動物の工夫の数々だとわかります。

問八

B1 関係づけ

⑨を含む一文に「⑨人間が…コメを発酵はっこうさせて日本酒を作り出すように、ウシは胃の中で栄養のある発酵食品を作り出しているのである」とあるので、ここには「ようだ(ような・ように)」と結びつきが強く、ある状態に類似していることを示す「まるで」が入ります。

問九

B1 置換 比較

「…は、そのためだ。」とあるので、——線⑩の一つ前の文をよく読みましょう。そこには、牛が「胃の中の消化物を、もう一度、口の中に戻して咀嚼そしやくする」という反芻はんすうという行為をすることが書かれています。ここから、答えはイです。ウ「咀嚼する」という反芻の一部の行為こうゐが示されていません。エ「二番目の胃で反芻し、口の中に戻して咀嚼する」とあり、

反芻という言葉を正確に使っていません。

問十 **B1** 理由 関係づけ

ウシやウマが大きい理由は、——線①の後の二段落に示されています。最後の一文に「この発達した内臓を持つためには、容積の大きな体が必要になるのである」とあります。ですから、**B**には「発達した内臓」が入るとわかります。「発達した盲腸」も六字ですが、これは、ウマやウサギの特徴であって、ウシはあてはまりませんので、答えになりません。草食動物の「発達した内臓」は何のために必要なのか、という点、固くて栄養価も少ないイネ科植物を消化吸収し、栄養分を得るためです。このことを参考に、**A**にあてはまる言葉を選び出しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十一 **B2** 抽象化 比較

内容正誤の問題は、選択肢を一つ一つ丁寧に読むことが大切です。イ「コメやコムギの…葉は人間にとって重要な食糧」の部分で誤りです。イネ科植物の「葉を食べることは無駄」とありました。ウ「ウマはシカと同じく盲腸を発達させ」の部分で誤りです。シカはウシと同じく反芻動物で、ウマのように盲腸を発達させたのはウサギです。オ「筆者は自らの体験をあげながら」の部分で誤りです。

3 **A2** 知識 関係づけ

文脈を考えて、似たような言葉の中から、適切な言葉を選びます。知らなかった言葉、自分で例文を作ることができない言葉については、辞書などで確認してください。

- ① 気にかける…気をつけている。気にしてあれこれ考える。
- ② 手をそめる…あることをし始める。関わりを持つ。
- ③ 目が見える…良いものを見慣れていて、良い悪いの見分けができる。
- ④ ことばをかえす…相手の言うことに反対して言い返す。口答えをする。
- ⑤ 言いふくめる…よくわかるように話して聞かせる。言い聞かせて、相手にわからせる。

4 **A2** 知識 比較

述語による文の分類の問題です。アは「何が何だ」、イは「何がどんなだ」、ウは「何がどうする」の形の文です。述語を言いきりの形に直した時、「名詞十だ」か、「形容詞十だ」・「形容動詞」か、「動詞」かを見極めましょう。

- ① 「すごしました」の言いきりの形は「すごす」です。
- ② 「やわらかい」は言いきりの形になっています。形容詞です。
- ③ 「ものです」の言いきりの形は「ものだ(名詞十だ)」です。
- ④ 「かたづけなさい」の言いきりの形は「かたづける」です。
- ⑤ この「健康だ」には注意が必要です。「ぼくが心がけている(こと)は…健康だ」という文ですから、これは形容動詞の「健康だ」ではなく、「名詞十だ」の「健康十だ」です。ですから、答えはアです。